

多言語多文化研究に向けた複合型派遣プログラム  
派遣先機関等利用マニュアル

2010 年 10 月 30 日

|             |            |
|-------------|------------|
| 派遣者氏名（専門分野） | 鈴江文子（英米文学） |
|-------------|------------|

|      |                                  |
|------|----------------------------------|
| 派遣期間 | 2010 年 9 月 2 日 ～ 2010 年 9 月 13 日 |
|------|----------------------------------|

派遣研究機関

| 国    | 都市    | 訪問機関      |
|------|-------|-----------|
| アメリカ | ワシントン | アメリカ議会図書館 |

利用マニュアル（利用申請に必要な書類、手続き、リサーチ方法を記入）

日本では入手不可能であり、重要な論文が多く掲載された定期購読雑誌、Jack London Newsletter の閲覧を希望した。これまで数十冊が出版されている雑誌だが、オンラインカタログでは 3 巻から 19 巻までが閲覧可能とのことだった。

まず貸出願フォームに雑誌名や希望巻等の必要事項を記入してレセプションに提出する必要がある。提出後、数時間すると司書の方が自分の机まで持ってきてくれる。とりあえず全巻閲覧希望で提出したが、数時間後に司書の方が持ってきてくれたのはたったの 2 巻分だけであった。これだけしかないのかと驚き、司書にこの雑誌の全巻が見たい、という旨を直接伝えてみた。するとその足で書庫まで見に行ってくれ、「これだけしかなかったよ」といって 3～19 巻間のとびとび 8 巻分を出してきてくれた。後日、別の司書の方何人かにも聞いてみたが、この日閲覧できた巻以外のものにはたどりつかなかった。毎日増え続ける図書館の膨大な資料のためか、資料がオンラインカタログに完璧に反映されていないことは少なくないようである。こういった場合、やはり司書の方に直接聞くことが重要だと感じた。

次に書簡を探した。オンラインカタログでは自力で探した限り見当たらなかったので、マニユスクリプト・リーディングルームで直接司書の方にジャック・ロンドンの資料があれば見たいと伝えた。すると、ロンドン自体のレターフォルダーはないようだったが、他のいろいろな著名人のフォルダーに点在し、合わせて 4 通あるとのことであった。このリーディングルームは初めてかと司書の方に聞かれ、そうだと答えると閲覧申請の仕方から返却のしかたまで非常に丁寧に教えてくれた。資料は直筆の手紙が 2 通、マニユスクリプトで閲覧可能なものが 2 通あった。直筆のものは写真におさめ、コピーをしてよいか聞くと了承を得られたのでコピーにもして保存した。マニユスクリプトは USB メモリに保存した。

今回の資料調査を通して感じたことは、司書の方に進んで質問することが大切だということである。司書の方たちは総じて親切であり、閲覧したい資料が見つからない場合でも、探索に協力してくれる。その時いらっしゃる司書によって思いもかけない資料に巡り合える可能性も大いにありうると感じた。